

令和5年度【大田区立東調布第一小学校・外国語授業改善推進プラン】

◎ 小学校 外国語科における分析

児童の実態	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な単語を聞き、その意味を理解することができている。 ・日本語と英語表現では発音やアクセントに違いがあることを知り、ALTの手本をまねて発音している。 ・大文字と小文字を識別し、正しい読み方・使い方を理解できている児童が多い。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音声で聞いた単語を理解することができている。 ・第三者同士の対話を聞き、話の内容を推測することに苦手意識を感じている児童がいる。 ・ALTが話した内容についてイメージがもてずに理解することが難しい児童がいる。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・既習した事項を基にコミュニケーション（会話等）を図ろうという意欲が低い児童がある。

◎ 外国語科の課題

- ・聞き取りや発話については慣れていますが、発表も意欲的に取り組む様子があるが、他者と関わり積極的に英語によるコミュニケーションを取ろうとする意欲付けが必要である。
- ・必然性のある場面の中で、英語を学習できるなど、学習の展開の工夫が必要である。
- ・外国語が面白い・楽しいと感ぜられることを大切にするとともに、児童の発達段階・学習段階に沿い、児童が最後まで意欲的に取り組めるような学習展開を研究する必要がある。

◎ 外国語科の具体的授業改善案

- ・英語によるコミュニケーションが意欲的に行えるようにするために、低学年から多様なアクティビティーやゲームを効果的に用いて題材に対する興味、関心を高め、段階を踏みながら取り組む必要がある。
- ・アルファベットの書き方の確実な定着を図っていくために、4線を用いて大文字と小文字の書き方を長期的に指導していく。
- ・外国語が面白い・楽しいと感ぜられるようにするために、ALTと連携しながら授業を展開するとともに、一人一人への具体的な声かけや児童への提案をしていく。
- ・なるべく低学年のうちから聞き取りや推測する力の習得を目指し、教師やALTの指示はすぐに日本語に訳すことはせず、簡単な英単語やデモンストレーションを見せてどのような活動をするのか理解できるようにする。